

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年11月14日

【四半期会計期間】 第42期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 先

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理部次長 長江 貴史

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理部次長 長江 貴史

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第41期 第2四半期 連結累計期間	第42期 第2四半期 連結累計期間	第41期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	8,416,601	8,037,359	16,342,314
経常利益 (千円)	155,740	268,403	126,904
親会社株主に帰属する 四半期純利益 又は親会社株主に帰属する 当期純損失() (千円)	63,626	114,716	103,306
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	61,424	148,331	131,368
純資産額 (千円)	6,309,298	6,263,537	6,115,636
総資産額 (千円)	15,025,160	15,026,556	15,486,712
1株当たり四半期純利益 又は当期純損失() (円)	29.75	53.65	48.31
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	42.0	41.7	39.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	117,153	412,064	439,889
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	178,475	31,740	417,534
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	418,552	554,377	66,868
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	2,387,291	2,843,816	2,954,680

回次	第41期 第2四半期 連結会計期間	第42期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	10.64	23.38

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第41期第2四半期連結累計期間及び第42期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第41期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費は緩やかな回復基調にあるものの、米中通商問題等による海外経済情勢の不安定性が見られ、依然として先行き不透明な状況にて推移しました。

外食産業におきましては、消費者の根強い節約志向に加え、牛肉等の原材料価格の高止まり、人手不足に伴う人件費の上昇等、コスト増加の傾向が続いており、さらに長梅雨や大型台風等の天候不順が客足に影響を及ぼすこととなり、厳しい経営環境が継続しました。

このような環境の下、当社グループは、経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」に徹底してこだわった「自然肉100%」、「無添加」の商品提供を堅持するとともに、付加価値の高いメニューの開発や既存店舗の改装を推進し、お客様に満足いただける店舗作りに注力してまいりました。また、お客様のニーズの多様化、高度化に対応すべく、食べ放題専門店等新たな業態の開発にも積極的に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高80億37百万円（対前年同期比4.5%減）、営業利益2億66百万円（対前年同期比57.4%増）、経常利益2億68百万円（対前年同期比72.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1億14百万円（対前年同期比80.3%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

安楽亭業態

安楽亭業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は182店舗であります。内訳は直営132店舗、暖簾14店舗、FC36店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、新メニュー「やわらかBIGステーキフェア」、令和改元記念の「令和！祝いのタン祭り」、人気タレをクローズアップした「タレ王者決定戦」、アイドルグループ「ときめき宣伝部」とのコラボフェア等、安楽亭の楽しさを伝える企画を多数実施し、スマホアプリやLINE配信、Twitter等を中心にお客様へのご案内を展開してまいりました。また、8月にテレビ朝日「10万円のできるかな」、TBSテレビ「ジョブチューン」の2番組にて安楽亭が紹介されたことを受け、「テレビで紹介された食べ放題スペシャルコース」、「TVで紹介！プロも認める合格メニュー1.5倍増量クーポン」等の企画を実施し来店促進を図りました。

以上の結果、安楽亭業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は66億86百万円（対前年同期比4.6%減）となり、セグメント利益（営業利益）は5億12百万円（対前年同期比37.2%増）となりました。

七輪房業態

七輪房業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は29店舗であります。内訳は直営23店舗、暖簾3店舗、FC3店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「おめでとう令和 松坂牛カルビ販売」、「厳選7品50%増量」、「七輪房の日」、「七輪房ホルモン祭り」等、七輪房の楽しさを伝えるフェアを多数実施し、安楽亭業態同様、スマホアプリやLINE配信、Twitter等によるご案内を展開してまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は11億74百万円（対前年同期比2.5%減）となり、セグメント利益（営業利益）は63百万円（対前年同期比19.6%減）となりました。

その他業態

その他業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は10店舗であります。内訳は直営5店舗、FC5店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋（焼肉）」、「国産牛カルビ本舗安楽亭（焼肉）」、「花炎亭（焼肉）」、「安楽亭ベトナム（焼肉）」、「春秋亭（和食）」、「上海菜館（中華）」、「アグリコ（イタリアン）」、「カフェビーンズ（喫茶）」及び新業態の「えんらく（焼肉食べ放題）」、「香港式中華バル ネイザンロード（中華）」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は1億76百万円（対前年同期比14.7%減）となり、セグメント損失（営業損失）は25百万円（前年同期はセグメント損失3百万円）となりました。

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ4億60百万円減少し、150億26百万円となりました。これは、借入金の返済による現金及び預金の減少、減価償却による有形固定資産の減少、敷金及び保証金の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ6億8百万円減少し、87億63百万円となりました。これは、借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ1億47百万円増加し、62億63百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等が要因です。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、1億10百万円減少し、28億43百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上2億56百万円、減価償却費の計上2億64百万円等により4億12百万円の収入となりました。前年同期と比べ2億94百万円（対前年同期比251.7%）の収入の増加となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出1億83百万円、敷金及び保証金の回収による収入2億82百万円等により31百万円の収入となりました。前年同期は1億78百万円の支出でありました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入1億円、長期借入金の返済による支出5億43百万円等により5億54百万円の支出となりました。前年同期と比べ1億35百万円（対前年同期比32.5%）の支出の増加となりました。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,139,434	2,139,434	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株で あります。
計	2,139,434	2,139,434		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日		2,139,434		3,182,385		147,735

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
豊山開発株式会社	さいたま市中央区上落合二丁目3 - 5	267	12.53
柳 時 機	さいたま市浦和区	171	8.00
株式会社北与野エステート	さいたま市中央区上落合二丁目3 - 5	105	4.95
アサヒビール株式会社	墨田区吾妻橋一丁目23 - 1	100	4.68
柳 允	さいたま市浦和区	55	2.62
柳 詠 守	さいたま市浦和区	55	2.62
柳 京	さいたま市浦和区	55	2.62
柳 先	文京区小日向	55	2.62
柳 朱 理	渋谷区代々木	55	2.62
株式会社Be-fresh	幸手市北二丁目6 - 5	53	2.50
計		978	45.76

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,125,800	21,258	
単元未満株式	普通株式 12,434		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	2,139,434		
総株主の議決権		21,258	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式50株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2-3-5	1,200		1,200	0.06
計		1,200		1,200	0.06

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,955,696	2,844,832
受取手形及び売掛金	421,191	378,887
商品及び製品	127,219	140,715
仕掛品	956	2,224
原材料及び貯蔵品	601,611	613,195
前払費用	203,354	195,660
その他	53,918	95,086
貸倒引当金	5,098	5,012
流動資産合計	4,358,850	4,265,589
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,697,335	2,763,354
機械装置及び運搬具（純額）	95,480	80,419
工具、器具及び備品（純額）	301,286	333,490
土地	5,003,923	5,003,923
リース資産（純額）	16,213	5,490
建設仮勘定	221,222	2,255
有形固定資産合計	8,335,463	8,188,933
無形固定資産		
のれん	32,011	81,278
その他	129,669	133,807
無形固定資産合計	161,681	215,085
投資その他の資産		
投資有価証券	64,728	58,424
長期貸付金	5,896	11,224
長期前払費用	19,601	22,962
繰延税金資産	153,809	141,584
敷金及び保証金	2,376,896	2,114,142
その他	35,833	34,583
貸倒引当金	26,048	25,972
投資その他の資産合計	2,630,717	2,356,948
固定資産合計	11,127,862	10,760,967
資産合計	15,486,712	15,026,556

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	568,482	537,884
短期借入金	1,060,713	1,064,028
リース債務	15,109	5,259
割賦未払金	186,788	183,437
未払金	185,517	244,524
設備関係未払金	129,826	59,246
未払費用	475,777	439,070
未払法人税等	122,484	171,725
未払消費税等	119,535	86,818
賞与引当金	71,000	75,100
転貸損失引当金	13,297	13,297
その他	567,107	507,995
流動負債合計	3,515,639	3,388,388
固定負債		
長期借入金	4,503,555	4,056,511
リース債務	1,534	
長期割賦未払金	519,189	510,613
繰延税金負債	104,751	104,320
役員退職慰労引当金	368,569	340,128
転貸損失引当金	36,133	29,485
退職給付に係る負債	223,167	222,086
その他	98,534	111,485
固定負債合計	5,855,436	5,374,630
負債合計	9,371,076	8,763,019
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,472,098	2,472,098
利益剰余金	495,853	610,569
自己株式	6,704	7,134
株主資本合計	6,143,632	6,257,918
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,611	6,441
為替換算調整勘定	384	822
その他の包括利益累計額合計	27,995	5,619
純資産合計	6,115,636	6,263,537
負債純資産合計	15,486,712	15,026,556

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	8,416,601	8,037,359
売上原価	3,059,835	2,898,926
売上総利益	5,356,765	5,138,433
販売費及び一般管理費	1 5,187,701	1 4,872,394
営業利益	169,064	266,038
営業外収益		
受取利息	907	544
受取配当金	1,157	1,263
受取地代家賃	3,669	3,126
貸倒引当金戻入額	108	161
その他	20,334	18,950
営業外収益合計	26,177	24,045
営業外費用		
支払利息	34,670	17,648
その他	4,831	4,032
営業外費用合計	39,502	21,680
経常利益	155,740	268,403
特別利益		
固定資産売却益		15,267
受取保険金		52,016
受取補償金		25,000
特別利益合計		92,284
特別損失		
固定資産除却損	3,794	7,895
固定資産圧縮損		50,185
投資有価証券評価損		39,926
賃貸借契約解約損	1,556	5,520
訴訟和解金	3,250	
災害による損失		868
特別損失合計	8,600	104,395
税金等調整前四半期純利益	147,139	256,291
法人税、住民税及び事業税	75,199	129,350
法人税等調整額	8,313	12,224
法人税等合計	83,512	141,575
四半期純利益	63,626	114,716
親会社株主に帰属する四半期純利益	63,626	114,716

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益	63,626	114,716
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,596	34,053
為替換算調整勘定	1,393	437
その他の包括利益合計	2,202	33,615
四半期包括利益	61,424	148,331
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	61,424	148,331

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	147,139	256,291
減価償却費	286,802	264,358
のれん償却額	6,807	11,402
貸倒引当金の増減額(は減少)	108	161
賞与引当金の増減額(は減少)	2,300	4,100
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	9,055	28,440
転貸損失引当金の増減額(は減少)	6,648	6,648
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	3,777	1,081
受取利息及び受取配当金	2,065	1,807
支払利息	34,670	17,648
為替差損益(は益)	16	73
固定資産売却損益(は益)		15,267
受取保険金		52,016
受取補償金		25,000
固定資産除却損	3,794	7,895
固定資産圧縮損		50,185
投資有価証券評価損益(は益)		39,926
賃貸借契約解約損	1,556	5,520
訴訟和解金	3,250	
災害による損失		868
売上債権の増減額(は増加)	51,576	42,304
たな卸資産の増減額(は増加)	204,927	26,347
前渡金の増減額(は増加)	2,788	4,865
仕入債務の増減額(は減少)	48,144	30,597
未払金の増減額(は減少)	38,737	55,406
未払消費税等の増減額(は減少)	41,399	24,699
未払費用の増減額(は減少)	42,595	36,403
預り金の増減額(は減少)	48,634	24,721
前受収益の増減額(は減少)	25,650	26,982
その他	9,722	26,150
小計	248,489	488,483
利息及び配当金の受取額	1,278	1,359
利息の支払額	34,634	17,791
保険金の受取額		1,831
補償金の受取額		25,000
店舗閉鎖に伴う支払額	4,478	1,920
訴訟和解金の支払額	3,250	
災害による損失の支払額		868
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	90,250	84,030
営業活動によるキャッシュ・フロー	117,153	412,064

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	183,509	183,741
有形固定資産の売却による収入		72,449
無形固定資産の取得による支出	17,645	22,288
事業譲受による支出		76,000
敷金及び保証金の差入による支出		43,375
敷金及び保証金の回収による収入	25,935	282,579
預り保証金の返還による支出	3,500	5,549
預り保証金の受入による収入	2,500	18,500
貸付けによる支出		5,800
貸付金の回収による収入	216	272
投資その他の資産の増減額（は増加）	2,473	5,308
投資活動によるキャッシュ・フロー	178,475	31,740
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	150,000	100,000
長期借入金の返済による支出	458,050	543,729
割賦債務の返済による支出	91,678	99,676
リース債務の返済による支出	18,824	10,541
自己株式の取得による支出		430
財務活動によるキャッシュ・フロー	418,552	554,377
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,377	291
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	478,497	110,863
現金及び現金同等物の期首残高	2,864,532	2,954,680
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	1,256	
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 2,387,291	1 2,843,816

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
減価償却費	260,815千円	241,144千円
賞与引当金繰入額	58,791千円	60,631千円
退職給付費用	12,972千円	14,444千円
役員退職慰労引当金繰入額	9,055千円	6,954千円
給料手当	2,441,196千円	2,315,177千円
地代家賃	987,617千円	910,197千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金	2,388,307千円	2,844,832千円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,015千円	1,015千円
現金及び現金同等物	2,387,291千円	2,843,816千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	7,005,569	1,204,408	206,624	8,416,601	8,416,601		8,416,601
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	7,005,569	1,204,408	206,624	8,416,601	8,416,601		8,416,601
セグメント利益又は 損失()	373,262	79,013	3,937	448,338	448,338	279,273	169,064

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	6,686,355	1,174,741	176,263	8,037,359	8,037,359		8,037,359
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	6,686,355	1,174,741	176,263	8,037,359	8,037,359		8,037,359
セグメント利益又は 損失()	512,081	63,546	25,362	550,265	550,265	284,226	266,038

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、(株)FSDから2店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては60,668千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益	29円75銭	53円65銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	63,626	114,716
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	63,626	114,716
普通株式の期中平均株式数(株)	2,138,449	2,138,241

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月13日

株式会社 安楽亭
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

指定社員 業務執行社員	公認会計士	小 笠 原 直	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	入 澤 雄 太	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。